

新たなビジネスモデルへの挑戦

『働き方改革とFM戦略』

グローブシップがセミナー開催

2015年4月、(株)ル代行と日本ビルサービス(株)が経営統合し、グロ

リティブ・マネジメント)戦略についての説明が行われた。

ープシップ(株)として新たなスタートを切った。

同社はユーザーから欠くことのできる「戦略的パ

ートナー」となるべく専門性と提案力を持った企業となることを目指し、ブランド構築に向けた取り組みを行っている。

その一環として取引先を対象としたセミナーが11月5日、東京・千代田区の東海大学校友会館で開催され、「働き方改革法案」成立に伴う労働環境の変化に企業はどう対応していくべきかについて、三菱UFJリサーチ



あいさつする矢口社長

人材育成強化の年

セミナーに先立ち登壇した矢口敏和社長は、「今年を「人材育成強化年」と位置づけ、教育研

修部を独立させるとともに、千葉県柏市にある研修センターの設備を最新のものに入れ替え、教育研修プログラムを大幅に見直した」と述べ、人材育成が同社の目指す「戦略的パートナー」となる



関係者150名が参加した

と今後の対応について説明した。

多様な人材が活躍する企業

セミナー第一部では、

矢口氏が働き方改革の必要性について次のように解説した。

「労働人口が減少し人材の確保が困難な状況に追い込まれている中、効率

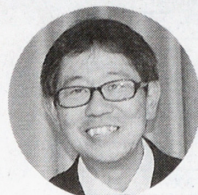
の良い働き方を実現させることが求められている。そのためには多様な人材が活躍できる職場環境の整備が必要。女性の活躍の場を広げるととも



矢島洋子氏



河野圭太氏



佐藤幸夫氏

に、高齢者、障がい者、外国人、LGBT(性的マイノリティ)など、さまざまな人材を受け入れる組織になることが望まれる。」

また、仕事と子育ての両立を図るワークライフ

バランスを実現させる上からも「脱長時間労働」と「柔軟な働き方」を重要なキーワードとして挙げ、休暇取得の推進による働く時間の短縮や、フレックス勤務・在宅勤務の採用といった、働き方を変えるための実例を示した。

さらに、社員の働き方の質を高めるため、管理職によるマネジメントや役割の見直しにも言及した。

そして、働き方改革には「目からウロコ」的な画期的方策はないとして、一つひとつの地道な活動を積み重ねることを奨励した。

経営資源の最適化図る

セミナー第2部では、グローブシップが2016年3月に世界最大手のFM企業、フランス・ソデクソ社と設立した合弁会社「グローブシップ・ソデクソ・コーポレート

サービス(GSS)」が提供するIFM(インテグレイテッド・ファシリティ・マネジメント)のサービス内容の紹介と、グローブシップが提供する環境やエネルギー

の最適管理、ライフサイクルコストの低減、ロボットやセンサーを活用した作業の効率化など、包括的FMソリューションメニューの紹介が行われた。

GSS COOの河野圭太氏は、同社が主に日本で事業展開する外資系企業に対し、ソデクソ流の先進的FM手法と高度な品質管理で幅広いサービスを一括で請け負っていることを説明し、「クライアントのコストの最適化と労力の節減に寄与することで、クライアントはコア事業に専念することができると述べた。

また、グローブシップFM推進部長の佐藤幸夫氏は、「FMは経営資源の最適化を図る手法として欧米を中心に普及し、グローバル化が進むにつれ、日本国内においても組織の競争力向上に欠かせないものになっていく」と述べ、「こうした流れの中でグローブシップは独自のSFM展開によりブランド化に向けた取り組みを続けている」とした。

同社が掲げるSFMには、主に「情報提供」「比較分析」「価値創造」の3つの特徴がある。同部長は、「受託したFM業務を行うだけでなく、お客様の経営リソースについて有効な活用方法を常に検討し、目的に合わせたプラスアルファのアウトプットの提案をすることが、大きなポイントです。FMは働き方改革法案の視点においても企業経営に貢献することができると述べた。今後お客様にとって有益となる取り組みを積極的にご提案しながら、パートナー会社として、役割を果たすことをお約束いたします」としていた。